



# 3 ソフトウェア 編

---

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

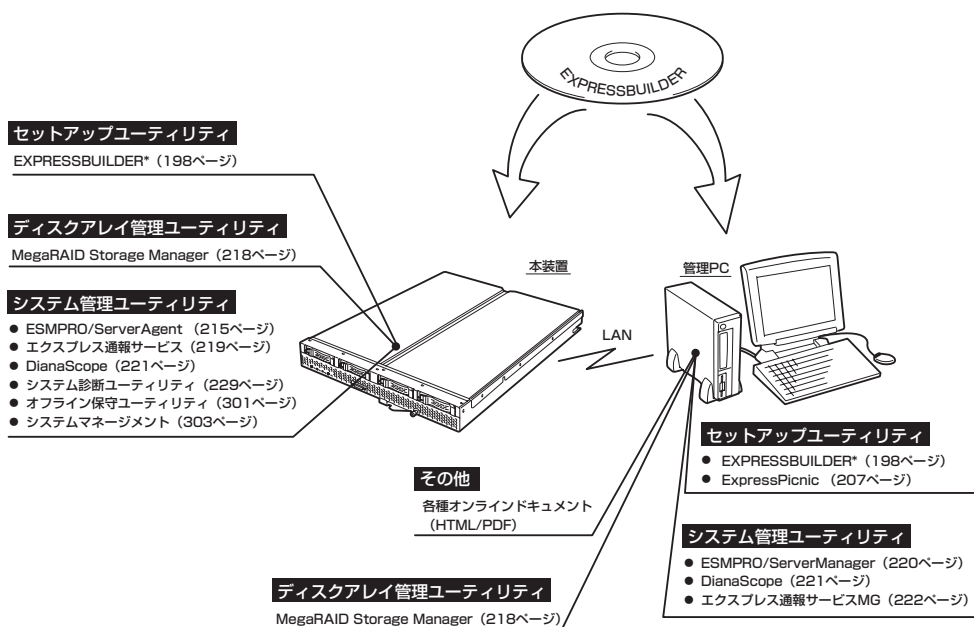
- 添付のCD-ROMについて(→196ページ) ..... 本装置に添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに収められているソフトウェアについて紹介します。
- EXPRESSBUILDER(→198ページ) ..... セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- ExpressPicnic(→207ページ) ..... シームレスセットアップ用パラメータディスク(セットアップパラメータFD)を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→215ページ) .... CPUブレードに接続されたハードディスクドライブにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→220ページ) ..... システムを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

# 添付のCD-ROMについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

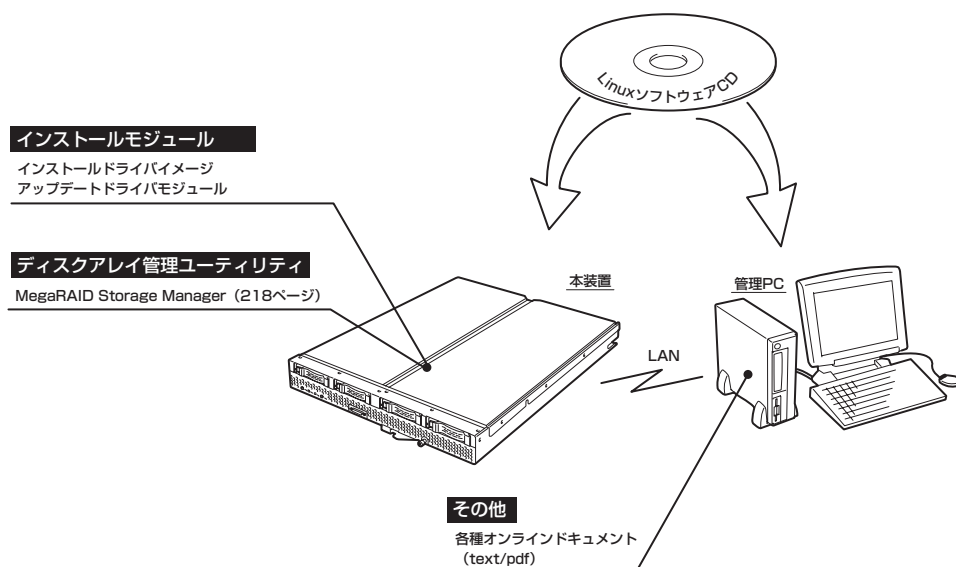


「EXPRESSBUILDER」CD-ROMは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



\* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

添付の「Linux ソフトウェアCD」CD-ROMには、本装置にLinux OSをインストールするために必要なモジュール、バンドルソフトウェアが収納されています。「Linux ソフトウェアCD」を使用してLinux OSをインストールする場合はCD-ROM内に格納されているRead Meファイルを参照してください。



# EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、保守用の各ユーティリティをメニュー形式で実行する統合ソフトウェアです。

## 起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。



リモートKVMコンソールでEXPRESSBUILDERを操作する場合、マウスは使用できません。キーボードを使用してください。

### ● 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動する

EXPRESSBUILDERを本体のCD-ROMまたはDVD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でシステムを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目から本装置をセットアップします。

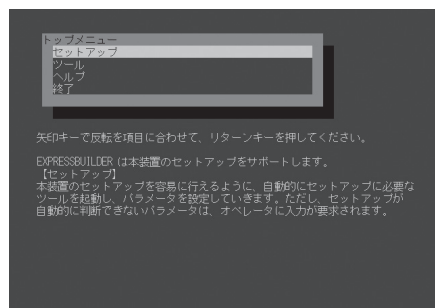


- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDER トップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDER トップメニュー」を参照してください。

## ● コンソールレスで「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからブート(起動)する

ファイル名「CSL\_LESS.CFG」の「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを F D ドライブ に挿入した状態で EXPRESSBUILDER から起動、または起動時のリモート、ローカルの切り替え画面で、R キーを押して起動すると、LAN か COM (シリアル) ポートで接続している管理用コンピュータ (P C ) の画面には、「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。管理PCからこのメニューにある項目を使って本装置を遠隔操作をします。

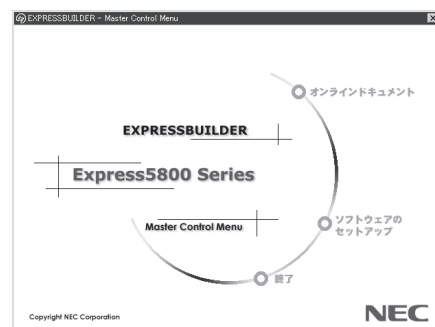


本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。

トップメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

## ● Windows が起動した後に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする

Windows (Windows 95以降、または Windows NT 4.0以降) が起動した後に、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROM またはDVD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

# EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS (オペレーティングシステム) のセットアップとインストールをするときに使用します。



重要

BIOSの設定を間違えると、CD-ROMから起動しない場合があります。  
EXPRESSBUILDERを起動できない場合は、BIOS SETUPユーティリティを起動して以下のとおりに設定してください。

「Boot」メニューで「CD-ROM Drive」を1番上に、「Removable Devices」を2番目に設定する。

## 起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置に接続しているCD-ROMまたはDVD-ROMドライブへ「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONして本装置を再起動する。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。



シームレスセットアップ

RAIDの構成からOSのインストールまでを切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。OSの再インストールを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。



ツール

EXPRESSBUILDERに収められている「システム診断」などの各種ユーティリティを個別に起動します。



ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。  
セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。



終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

## シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows Server 2003)、各種ユーティリティインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクドライブのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。



セットアップを開始したら、完了するまで本体の電源をOFFにしないでください。また、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

## ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。

また、システム診断やサポートディスクの作成を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

ツールメニュー	RAID情報のセーブ/リストア
<ul style="list-style-type: none"> <li>RAID情報のセーブ/リストア</li> <li>オフライン保守ユーティリティ</li> <li>システム診断</li> <li>サポートディスクの作成</li> <li>各種BIOS/FWのアップデート</li> <li>システムマネージメント機能</li> <li>ヘルプ</li> <li>トップメニューに戻る</li> </ul>	RAIDの種類: 検出 総ディスク数: 1 使用ディスク数: 1 RAIDレベル: 7 メモリ: WRITE THRU 保守用(リカバリ): あり

### ● RAID情報のセーブ/リストア

このメニューは本体装置のSW RAID機能が有効(Enabled)に設定されている場合、またはLSI-Logicディスクアレイコントローラが接続されている場合に表示されます。ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存(セーブ)、またはフロッピーディスクから復元(リストア)することができます。

なお、SW RAID機能が有効になっている場合は、SW RAIDのコンフィグレーション情報を保存または復元します。SW RAID機能が無効になっており、かつLSI-Logicディスクアレイコントローラが接続されている場合には、LSI-Logicディスクアレイコントローラのコンフィグレーション情報を保存または復元します。

#### ー RAID情報のセーブ

ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。RAIDの設定や変更を行った時は、必ず本機能を使用してコンフィグレーション情報を保存してください。

## ー RAID情報のリストア

フロッピーディスクに保存されたコンフィグレーション情報をディスクアレイシステム上に復元します。「RAID情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。コンフィグレーション情報が万一破壊された場合や、誤ってコンフィグレーション情報を変更してしまった場合は、本機能を使用してコンフィグレーション情報を復元してください。



この機能は保守用です。保守以外の目的で操作しないようにお願いいたします。誤った操作を行うとデータが損失するおそれがあります。

## ● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は301ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

## ● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。229ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

## ● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

### ー Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。

### ー Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows Server 2003 をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します。（「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません。）

### ー ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

### ー オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

### ー システムマネジメント機能

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。



- 各種BIOS/FWのアップデート

NEC 8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『NEC 8番街』: <http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- システムマネージメント機能

BMC (Baseboard Management Controller) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

# コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。

## 起動方法

起動方法は、下記の方法で実行できます。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(COM B)された管理PCから実行する

起動方法の手順については、EXPRESSBUILDER内の「DianaScope オンラインドキュメント」を参照してください。



- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。DVD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続はLANポートのみ使用可能です。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを必ずFDドライブに挿入しておく必要があります。「設定情報ファイル」はツールメニューのシステムマネージメント機能や、DianaScope Configurationで作成することができます。「設定情報ファイル」はフロッピーディスクのルートディレクトリに必ず以下のファイル名で作成してください。  
＜設定情報ファイル名＞: CSL\_LESS.CFG
- BIOS セットアップユーティリティを通常の終了方法以外の手段(電源OFFやリセット)で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。

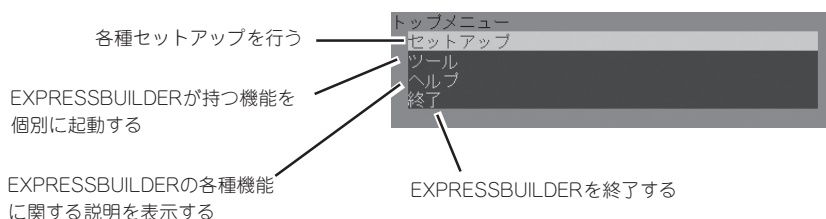


BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- Serial Port B: [Enabled]
- Base I/O address: [2F8]
- Interrupt: [3]
- BIOS Redirection Port: [Serial B]
- Baud Rate: [19.2k]
- Flow Control: [CTS/RTS]
- Terminal Type: [PC ANSI]

## トップメニュー

管理PCの画面上に表示されるトップメニューは次のとおりです。



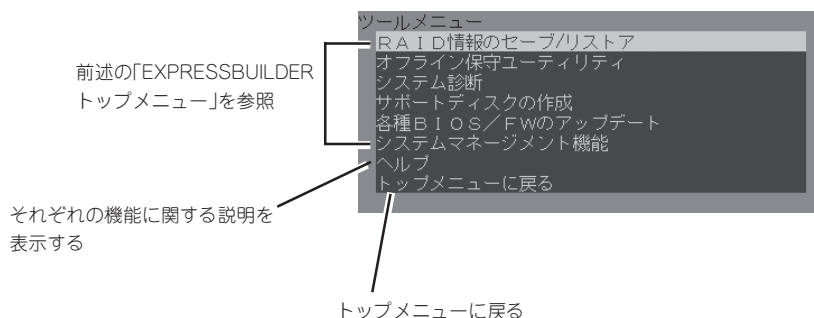
## セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションを自動的にを行います。



## ツールメニュー

トップメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。



「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると「システム診断」の内容や操作方法(詳しくは、229ページを参照してください)が異なります。

# マスターコントロールメニュー

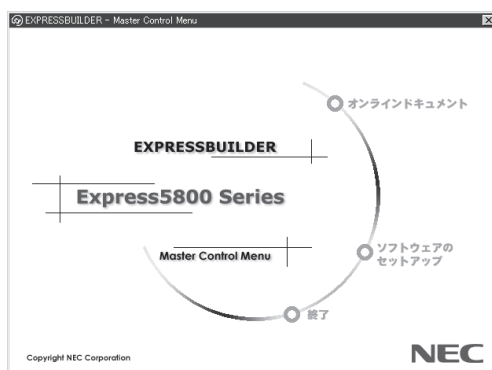
Windows (Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が動作しているコンピュータ上で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

<CD/DVD-ROMのドライブレター>:\MC¥1ST.EXE (32bit Windowsの場合)

<CD/DVD-ROMのドライブレター>:\MC¥1ST\_X64.EXE (64bit Windowsの場合)



マスターコントロールメニューからは、オンラインドキュメントの参照や各種ソフトウェアのインストールなどができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Reader がインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステムズ社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、メニューが動作しているシステムやログオンしたときの権限によっては、項目の一部がグレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行するようにしてください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

# ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからセットアップすることをお勧めします。



Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions用の「セットアップパラメータFD」は作成できません。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows Server 2003をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

## セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。

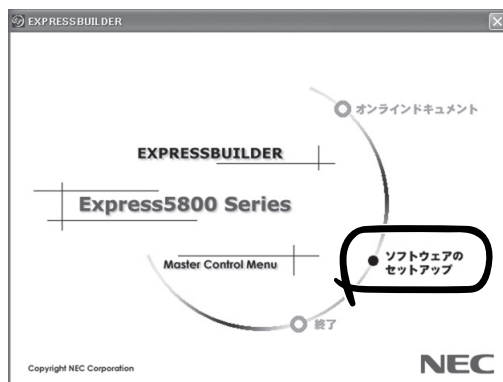
- Windows Server 2003
- Windows XP
- Windows 2000

Windows Vista / Windows Server 2003 x64 Editions / Windows XP x64 Editionでは使用しないでください。

ExpressPicnicではJIS2004はサポート対象外です。「JIS2004 フォントパッケージ」をOSに適用しているマシン上で作成した情報ファイルを使ってシームレスセットアップを行わないでください。JIS90 の範囲外にある文字を使用されていた場合、文字化けが発生することがあります。

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMまたはDVD-ROMドライブにセットする。  
マスターコントロールメニューが表示されます。

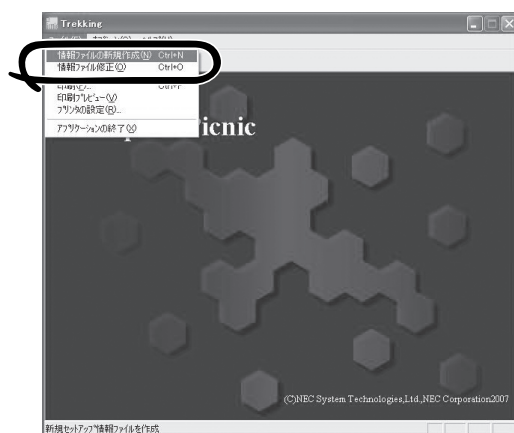
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。



4. [ExpressPicnic]をクリックする。  
ExpressPicnicウィンドウが表示されます。

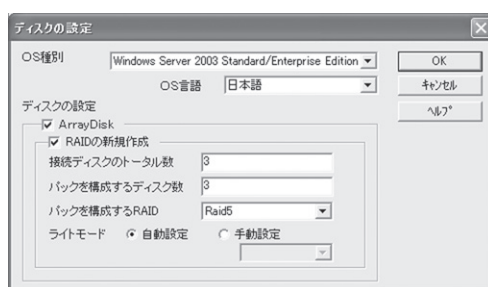
5. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



6. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

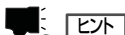


7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

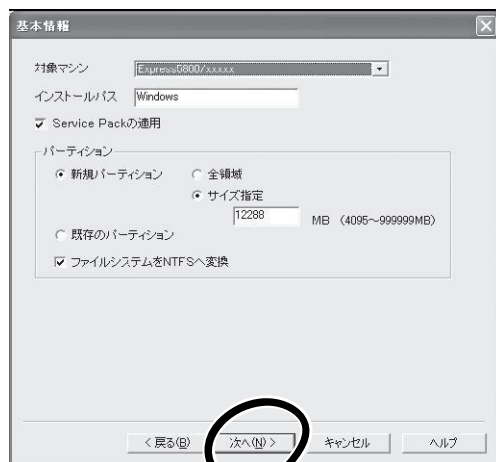
セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイル保存]ダイアログボックスが表示されます。



[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。



使用者名と会社名を日本語で設定する場合は、ExpressPicnicで設定してください。シームレスセットアップ中に日本語入力することはできません。ただし、シームレスセットアップを使ったインストールを完了後、ログオンのときに表示されるポップアップ画面で再入力し直すことができます。



8. [セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。



9. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows Server 2003をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。詳しくはヘルプを参照してください。

# 追加アプリケーションのインストール

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (207ページ参照)。

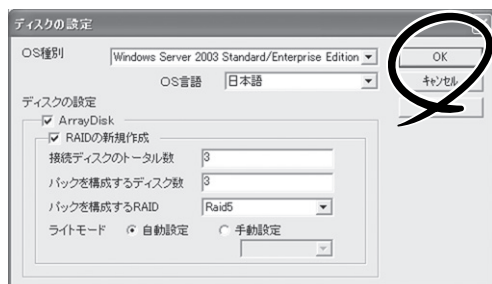
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。



4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

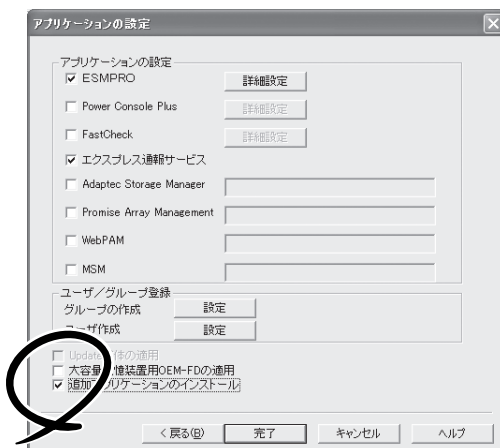


**チェック**

[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。



5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。



6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

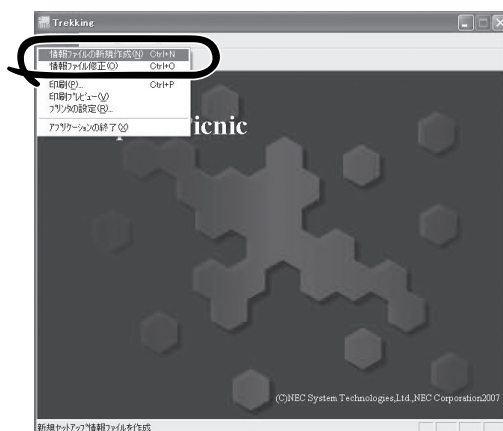
# 大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(207ページ参照)。

2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

[基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

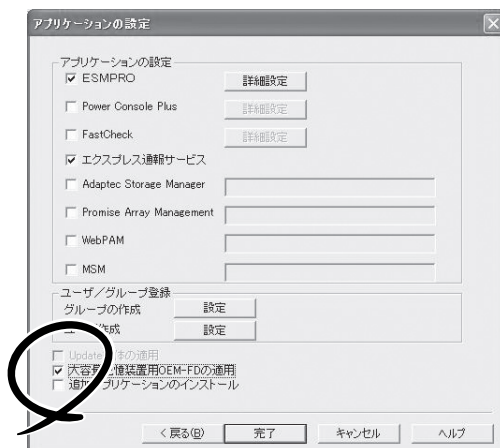


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

✓ **チェック**

[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。



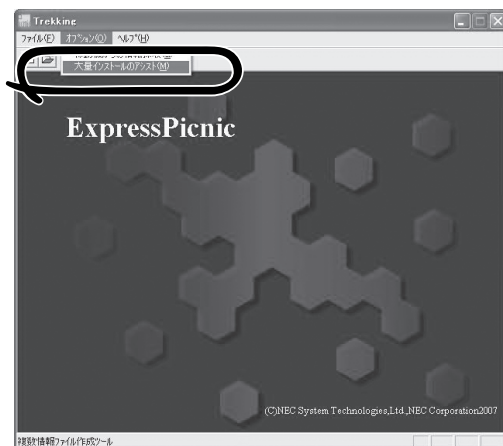
6. [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

# 大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる (207ページ参照)。

2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。



3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

4. [追加]をクリックする。



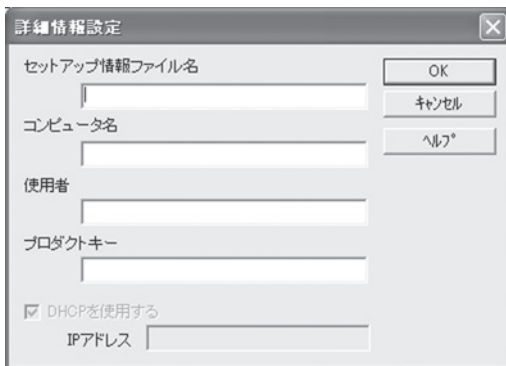
5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. [OK]をクリックする。

リストに追加した情報が表示されます。

7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリックする。

選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。



# Express本体用バンドルソフトウェア

CPUブレードにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

## ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



ESMPRO/ServerAgentの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」を参照してください。

### インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindowsのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- SNMPサービスの設定

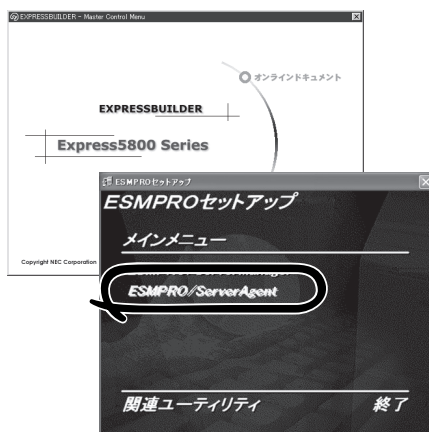
コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「\*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

## インストール

Express5800シリーズにインストールしたOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。



ネットワーク上のDVD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

## インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Express5800シリーズ本体を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

## 注意事項

ESMPRO/ServerAgentを使う場合には、「ESMPRO/ServerAgent インストールガイド」に記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

---

### 筐体センサの監視について

ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)に実装されるファン・電源は EMカードにより監視されます。EMカードが監視する情報は、ESMPRO/ServerManagerの エンクロージャビューアで確認できます。

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源] はCPUブレードの電源回路の状態を表示しています。

# MegaRAID Storage Manager™

MegaRAID Storage Manager™(以下MSMと略記します)は、ディスクアレイコントローラの監視・管理を行うアプリケーションです。MSMを使用することで、システム運用中のアレイの保守やイベント監視による通報を行うことができます。

Windows版 MSMのインストールおよび操作方法については、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。

Linux版 MSMのインストールおよび操作方法については、「LinuxソフトウェアCD」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。

これら説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

## カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にMSMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、別途通報監視についての設定などが必要な場合があります。

「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照し、設定してください。

## シームレスセットアップを使ったセットアップ

Windows版 MSMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「MSM」を選択してください。

## 手動インストール(新規インストール)

手動でWindows版 MSMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。

手動でLinux版 MSMをインストールする場合は「LinuxソフトウェアCD」内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Manager™ ユーザーズガイド」を参照してください。



# エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知することや、障害発生時に迅速に保守を行うことができます。

## セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェアメンテナンスサービスの契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

# 管理PC用バンドルソフトウェア

CPUブレードをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

## ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

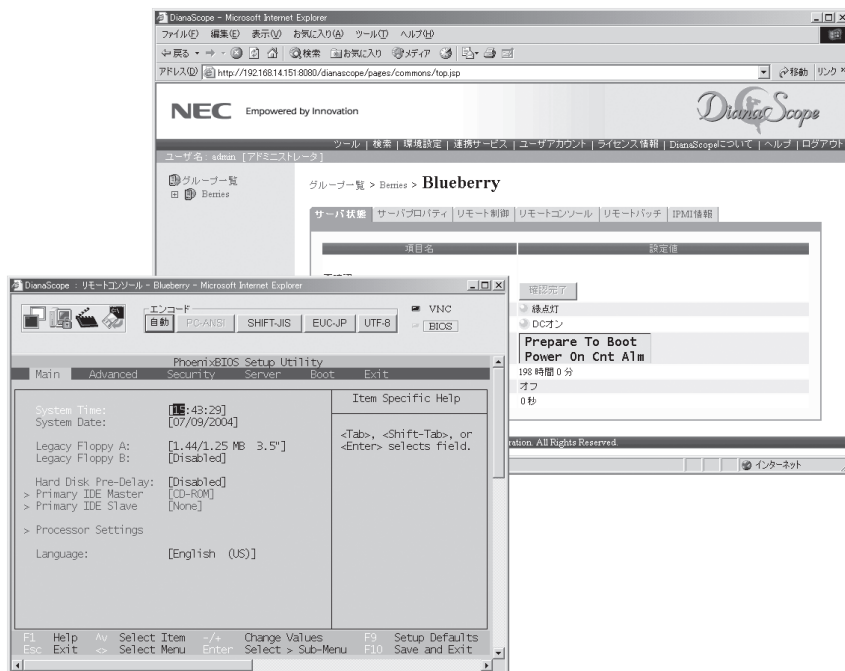
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールレーションガイド」を参照してください。

# DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。  
DianaScopeの機能やインストール方法についての詳細はオンラインドキュメントを参照してください。



本製品をDianaScopeで管理する場合、Delay Time設定は 0秒(初期値) から変更しないでください。

CPUブレードへの電源供給開始後、電源ONを行うと、各CPUブレードごとに(スロット番号-1) \* 2秒 の待機時間が挿入されます。Delay Timeを0秒以外に設定した場合、待機時間が正しい長さになりません。

Delay Time設定については、DianaScopeオンラインヘルプの「サーバ」→「サーバプロパティ」→「サーバプロパティ」→「電源オプション設定」を参照してください。



本製品においてDianaScopeを使用するためにはサーバライセンスが必要です。  
本製品には以下のサーバライセンスが添付されています。

- UL1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)  
本製品を1台管理するためのライセンス

# エクスプレス通報サービス(MG)

エクスプレス通報サービス(MG)は、エクスプレス通報サービスにおいて、EMカードからのアラートを保守センターに通報するためのプログラムです。

EMカードは、ESMPRO/ServerAgentを経由せずにESMPRO/ServerManagerにアラートを送信します。そのため、エクスプレス通報サービス(MG)はESMPRO/ServerManager側にインストールします。

## セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービス(MG)を有効にするには、エクスプレス通報サービスと同様の手続きが必要です。詳しくは「エクスプレス通報サービス」(219ページ)を参照してください。

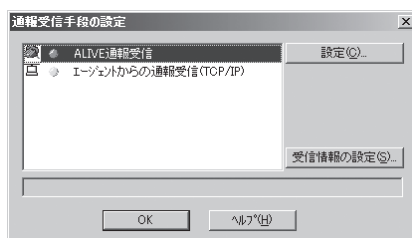
## 受信情報の設定

エクスプレス通報サービス(MG)でEMカードのアラートを通報するためには、まず、受信情報の設定を行う必要があります。次の手順で設定を行ってください。

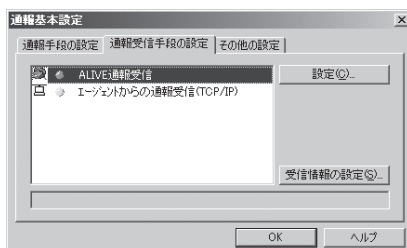
### 1. 「受信情報の設定」ツールの起動

ツールは以下の手順で起動します。

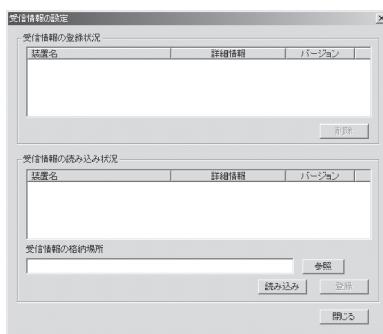
- ① アラートビューアを起動する。
- ② アラートビューアの「ツール」メニューから「通報の設定」を選択する。  
「通報受信手段の設定」画面が表示されます。



ESMPRO/ServerAgent、またはWebSAM AlertManagerがインストールされている環境では、通報受信手段の設定画面ではなく、アラートマネージャツールが起動します。その場合は、アラートマネージャツールの「設定」メニューから「通報基本設定」を選択して「通報受信手段の設定」画面を表示させてください。



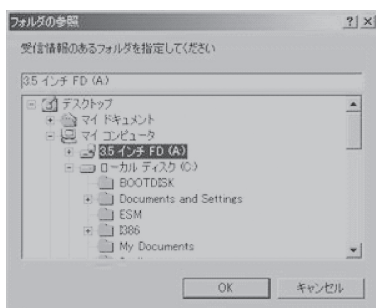
- ③ 「受信情報の設定」ボタンをクリックして受信情報の設定ツールを起動する。



## 2. 受信情報の格納場所の設定

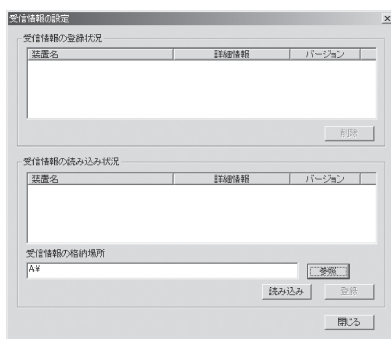
- ① 「受信情報の格納場所」エディットボックスに直接格納場所を入力するか、または「受信情報の設定」画面の「参照」ボタンを押す。

「参照」ボタンを押すと以下に示す「フォルダの参照」画面を表示します。



- ② 受信情報のある場所を指定して「OK」を押す。

以下の画面のように「受信情報の格納場所」に指定した場所が表示されます。



### 3. 受信情報の読み込み

「読み込み」ボタンを押すことにより、「受信情報の格納場所」から受信情報が読み込まれます。読み込まれた情報は、「受信情報の読み込み状況」リストビューに表示されます。何も表示されない場合は、登録可能な情報が「受信情報の格納場所」にない場合です。

装置名	詳細情報	バージョン
-----	------	-------

装置名	詳細情報	バージョン
装置-A	オフライン	2.0.0
装置-A	オンライン	3.0.0

受信情報の格納場所: A#

### 4. 登録操作

「受信情報の読み込み状況」の項目を確認し、登録が必要なものを選択し、「登録」ボタンを押すことで登録が行えます。登録が完了すると、画面は以下になります。

装置名	詳細情報	バージョン
装置-A	オフライン	2.0.0
装置-A	オンライン	2.0.0

装置名	詳細情報	バージョン
-----	------	-------

受信情報の格納場所: A#

### 5. 削除操作

「受信情報の登録状況」に表示している項目を選択して、「削除」ボタンを押すことにより登録の削除が行えます。

### 6. 終了

「閉じる」ボタンを押すと「受信情報の設定」ツールは終了します。

エクスプレス通報サービス(MG)のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。